

平成 30 年度 学術振興基金助成による成果報告書

平成 30 年 12 月 18 日

学 長 殿

所属部局・職名 人間発達文化学類・教授

申 請 者 名 澁 澤 尚

助成事業の区分 (該当するものに○印)	研究協力に関する事業 (学術出版・叢書・ <u>学会等運営</u> ・学会参加) 学術振興に関する事業 (学生・事務職員・その他の特別事業)
事 業 名	福島大学国語教育文化学会 2018 年度後期学会
事業実施期間	平成 30 年 12 月 15 日
成 果 の 概 要	<p>福島大学国語教育文化学会の後期学会は、国語教育、日本の言語文化（日本語学・日本文学・漢文学・比較文学）、及び日本語教育の各分野に関する研究・支援活動、また学生・院生教育を目的に開催してきているが、本年度の当該学会も、その趣旨を十分に達成することができた。</p> <p>本年度は、各分野の学生研究班研究成果報告のほか、教員研究発表では日本語学・日本語教育学分野の中川祐治准教授による「地域日本語教育人材に求められる能力とは何か」と題する発表、院生研究発表では、3人の院生による国語科教育（「国語科における暗唱の指導法に関する研究」「〈混成型テキスト〉の読解方略—データの適切性に着目する授業プログラムの開発—」）と近現代文学（「F.S.Fitzgerald" The Rich Boy"と村上春樹の初期小説」）の修論構想発表がおこなわれた。</p> <p>国語教育文化の向上と在学生・在学院生の教育とを目的として外部から講師を招聘している「学術講演会」では、書学・書道史の分野で活躍されている筑波大学・芸術系教授の菅野智明氏を講師として招聘し、「近代中国の書画界におけるネットワーク形成と結社」と題する講演をいただいた。</p> <p>また、講演後に講師と本学教員・院生を中心に学習会も開催し有意義な会となった。上記いずれも次年度の学会活動に寄与する成果を上げることができた。</p>